【コラム】桜井由躬雄先生追悼会報告

小川有子 * ・柳澤雅之

バッコック調査団を長らく率いてきた桜井由躬雄先生は、2012 年 12 月 17 日に急逝された（享年 68 歳）。

桜井先生は 2006 年度に東京大学を退職された後も、桜井ゼミやアジア農村研究会の活動、バッコック調査を継続され、さらには地域情報学によるハノイ都市研究やシンポジウムの実施、ベトナム国家大学での授業など、精力的な活動を展開されていた。2009 年末にはハノイでの交通事故により足を骨折され、およそ 1 か月後に退院されて間もなく、心不全を患われたが、その年の秋には、ハノイでのタンロン・ハノイ建都千年祭の式典に出席するまでに回復された。翌 2012 年は活発に東南アジアでの調査を実施し、11 月にハノイで開催されたベトナム学国際学会にも出席されていた。

ベトナムで先生にお会いするのはそれが最後になるとは、ベトナム学国際学会に参加した誰にも思い及ばないことであった。

桜井先生の追悼会は東京、京都、ハノイと 3 度にわたって実施された [i]。

1. 東京追悼会　（小川有子）

2013 年 4 月 13 日、古田元夫先生が代表を務められた桜井由躬雄先生追悼会実行委員会主催の学士会館での追悼会には、およそ 250 人が出席した。

桜井先生の先輩後輩や友人、学生が思い出を語った他、ベトナム歴史学界を代表する研究者たちや、バッコック調査でお世話になってきたタインロイ社やコックタイン合作社の幹部たち、バンコク国立博物館ヴォランティアー日本語ガイドグループからのビデオレターが上映された。その後三恵子夫人からの挨拶があり、最後に参加者は桜井先生のにこやかな遺影に献花した。

多くの参加者が、久しぶりの顔に出会って笑顔であった。会場のあちらでもこちらでも思い出話に花が咲き、桜井先生が喜ばれるであろう賑やかな会となった。

＜式次第＞

I.　実行委員会あいさつ
II.　桜井先生の思い出を語る
III. 献杯
IV. 海外よりのビデオレター

---

[i] 2014 年 12 月の東南アジア学会第 92 回研究大会（於：立教大学池袋キャンパス）では、「桜井由躬雄先生追悼シンポジウム：東南アジア地域研究の新地平」が実施された。

ヴー・ミン・ザン教授、グエン・クアン・ゴック教授、ファン・フイ・レー教授[ii]
コックタイン合作社ブイ・フイ・クイ主任、ブイ・フイ・ディン副主任、
タインロイ社ヴー・ティエン・ゴアン主席、ヴー・スアン・ホエ書記[iii]
バンコク国立博物館ヴォランティアー日本語ガイドグループ[iv]

V. 桜井先生の思い出を語る

VI. ご遺族からのごあいさつ

VII.献花

参加者には 2013 年 4 月 13 日発行の桜井由躬雄著『一つの太陽オールウエイズ』(めこん)が配布された。

2. 京都追悼会　（柳澤雅之）

2013 年 4 月 19 日、東南アジア学会関西例会研究会主催による、「関西で桜井由躬雄先生を偲ぶ会」が、京都大学稲盛財団記念館 3 階大会議室において開催された。偲ぶ会のタイトルは、「歴史地域学から見た東南アジア研究の未来－桜井由躬雄先生を偲ぶ－」であり、式次第は下記の通りであった。偲ぶ会の案内には次のように書かれている。

> 1977 年に京都大学東南アジア研究センター（東南ア研）に就職されたのち、京都での桜井さん（と書かせていただきます）は、ご自身で紅河デルタ農業史を中心とする「歴史地域学」を築きあげられただけでなく、東南ア研や東南アジア史学会関西例会・「漢籍を読む会」その他を舞台として、「江南デルタ稲作シンポ」をはじめ、たくさんの創意あふれる活動を展開されました。新しい学問の世界への熱気がうずまく「梁山泊」、その中心に桜井さんがいたといっても過言ではないように思われます。そこからさまざまな画期的研究が生まれました。そこから多数の若手が巣立ちました。1990 年に東京大学に移られてからも、バッコック村総合調査などを通じて、関西の学界は刺激を受けつづけました。

桜井先生の研究拠点が東京に移ってからも、先生は研究会や打ち合わせ等で京都にたびたび足を運ばれていた。会えば議論になり、呑めばさらに議論は白熱した。研究会から呑み会、時には朝まで延々と続く議論の中で、研究のアイデアや手法、教養や知識、議論のたたかわせ方から人の生き方まで、たくさんのことを学ぶことができた。そうした学恩に報いるべく、京都では、偲ぶ会を研究会形式で開催した。偲ぶ会で課された宿題や今後対

[ii] ベトナム国家大学広報室ブイ・トゥアン氏撮影。
[iii] 柳沢雅之撮影。
[iv] バンコク国立博物館ヴォランティアー日本語ガイドグループ撮影。

応すべき課題に、まだ十分に答えられていないが、ようやく再刊したバッコック通信を中心に、発信し続けていく必要があると改めて思う。

＜式次第＞

（敬称略・京都大学地域研究統合情報センター「2013/04/19　京都での桜井由躬雄先生を偲ぶ会」http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/event/152.html から転載、2021 年 3 月 4 日最終閲覧）

14:00-14:10 趣旨説明

14:10-15:40 歴史研究とフィールドワーク：

ベトナム史研究、東南アジア史研究、アジア海域史研究から考える

発表者

桃木至朗（大阪大学大学院文学研究科）

岡本弘道（県立広島大学人間文化学部）

15:40-16:00 休憩

16:00-17:30 地域研究と歴史地域学：生態基盤と村落から東南アジアを考える

発表者

高谷好一（京都大学名誉教授）

柳澤雅之（京都大学地域研究統合情報センター）

17:30-18:00 総合討論 I.　実行委員会あいさつ

また、同日 18:30 から、京都大学稲盛財団記念館 3 階中会議室で懇親会が開催された。

3. ハノイ追悼会　（小川有子）

桜井先生は生前、遺灰は紅河に撒いてほしい、とご遺族や周囲の人々に語られていた。先生の願いを叶えようと三恵子夫人が古田元夫先生に相談されたことから、ハノイで追悼会と散骨式が行われる運びとなった。

式典はベトナム国家大学ベトナム学開発科学研究所が実施を担当し、2013 年 7 月 31 日・8 月 1 日の 2 日に渡って行われた。

初日は旧インドシナ大学のホールで追悼会が行われた後、船で紅河に出、僧侶の祈祷の後に紅河への散骨と献花が行われた。散骨式終了後の昼食会では、参加者が桜井先生やバッコック調査の思い出を語り合った。タインロイ社やコックタイン合作社幹部も、早朝に自宅を出て追悼会と散骨式に参加した。

翌日は車でタインロイ社に向かい、チャンラム小学校でバンヤンの木の記念植樹を行った。2019 年 3 月に、三恵子夫人、柳澤と共に現地を訪れた際には、6 年の間に大きくなった記念樹を確認することができた。

＜式次第＞　＊ベトナム国家大学より送付された日本語の追悼会スケジュール
桜井由躬雄教授追悼会詳細（2013 年 7 月 31 日・8 月 1 日）

I.　追悼式

1　場所 : ハノイ国家大学レー・ヴァン・ティエム会場（レー・タイン・トン 19 番）

2　スケジュール

08H00:　受付

08H30:　開幕 (ファム・ホン・トゥン教授)

08h40:　桜井先生のスライドの上映

08h55:　スピーチ:

ファン・フイ・レ（レー）教授・古田元夫教授・ハノイ大学代表・越日友好協会ハノイ市代表・先生の学生代表・ご遺族: 桜井夫人

10h00: 閉幕

II.　水葬式

1　形式 : ベトナムの仏教儀礼に従って実施

2　場所 :　紅河（船にて）

3　スケジュール

10h30:国家大学を車で出発し、チュンズオン船着き場へ移動

11h00: 紅河観光会社の船に乗船

11h15: ドン・ボ・ダウの地点にて桜井由躬雄教授の散骨を実施

11h45: 船着き場へ戻り、車で移動

III. 昼食会

1　場所 : ナンタム精進料理店（チャン・フン・ダオ 79 番）

2　時間 : 12 時～13 時半

IV. タィンロイ村での記念植樹（8 月 1 日）

1　植樹場所 : ナムディン省ヴ・バン県タィンロイ社チャンラム小学校

2　スケジュール

08h00:代表団、車でハノイ出発

10h00: タィンロイ社着

10h30: 挨拶、植樹

11h15: ハノイへ向け出発

追悼会に先立ち、30 日夜には、追悼会実施に尽力いただいたベトナム国家大学や日本の関係者を招いた桜井三恵子夫人主催の夕食会が行われた。出席者はどなたも、古くからの桜井先生のご友人でもあり、バッコック研究の共同研究者であったり、バッコック調査のために様々な協力、尽力を惜しまぬ方々であった。2018 年にはファン・フイ・レー先生が

逝去され、この日と同じメンバーで同じようににこやかに談笑することも、議論を交わすことも、もはやかなわなくなった。

我々はいつまでも記憶を語ることができるわけではなく、またその時々には共有していたつもりの認識や情報も、時を経るうちにこぼれ落ちてゆくことがある。あらためて、バッコック通信によって様々な記録を残し、共有し、伝えていくことの重要性を感じている。

---

* 1999 年春に桜井研究室の博士課程に進学した筆者にとって、先生の突然の死を正面から受け止めることはあまりにも難しかった。葬儀の後、火葬場まで同行させていただいた後も、どこか顔を体ごと斜にして現実から目を背けていた。追悼会でも実務を担当して忙しくすることで、追悼される先生の間近に身を置きながら、頑張って斜めの姿勢を貫いていたように思う。東京での追悼会で白い花を遺影の前に置く時だけ正面に向かってみたが、すぐにそこを退いてしまった。会場から持ち帰った『一つの太陽：オールウエイズ』はずっと作業机の上に立ててあったものの、開くことができるまでに 1 年以上の時間が必要だった。

＜2013 年 4 月 13 日　追悼会　於：学士会館＞

＜2013 年 4 月 19 日　追悼会　於：京都大学＞

＜2013 年 7 月 30 日　三恵子夫人主催夕食会＞

＜2013 年 7 月 31 日　追悼会　於：ハノイ国家大学＞

＜2013 年 7 月 31 日　紅河への散骨式＞

＜2013 年 8 月 1 日　植樹式　於：バッコック村＞

＜2019 年 3 月　三恵子夫人再訪時の記念樹＞